

★音楽文化学科音楽文化専修

卒業の認定に関する方針【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時まで期待する学修の内容

エリザベト音楽大学での4年間の学びによって、「教養・実力・慈愛のある音楽家」としての資質を身につけていることが期待されます。さらに、音楽文化専修各領域の専門的な学びとして、音楽創作領域の学生においては、自らの抱くイメージを追い求めて適切に作品化し、演奏することのできる力、音楽研究領域の学生においては、テーマを深く掘りさげて調べ、自ら考察する力、音楽教育領域の学生においては、音楽教育の意義と様々なあり方についての深い知識と考察力、実践力を身につけていることが期待されます。

■学位授与の基準

卒業時に以下の資質を有することを目標として、所定の単位を修めた学生は卒業を認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

- ・音楽を深く愛し、「美」の追求につねに真摯であること。
- ・音楽および音楽文化に関する、広い専門的知識と理解力・実践力を持っていること。
- ・卒業演習および卒業研究をとおして、論理的な思考力と分析力、また自らの考察を的確に他者に伝えることのできる力を身につけていること。

教育課程の編成及び実施に関する方針【カリキュラム・ポリシー】

■研究・指導の体制

音楽文化専修の指導は、作曲、デジタル鍵盤楽器、音楽学、宗教音楽学、音楽教育学などを専門分野とする教員によって行われます。個人レッスンおよび特殊講義は基本的に一人の教員によって指導・教授が行われますが、3年次と4年次の演習では、複数の教員が関わることで、多角的な視点からのアドバイスができる体制にしています。

■教育内容および教育方法の特色

音楽文化専修では、1年次には全員共通で音楽創作、音楽研究、音楽教育に関する概論を学びます。そのうえで、2年次からは、各自の関心に応じて3つの領域（音楽創作領域、音楽研究領域、音楽教育領域）から1領域を選択し、それぞれのコアとなる科目を必修として学ぶことで、専門性を深めていきます。3年次と4年次には3領域合同での演習が行われ、それによって、自ら主体的に考える力、分析的、発展的に問題を追究する力、プレゼンテーションおよびディスカッションの力、相互評価の力を培います。4年次における卒業研究では、各自の専門領域に応じて、卒業作品ないし卒業演奏、または卒業論文に取り組みます。

なお、作曲ないしデジタル鍵盤楽器を専門とする音楽創作領域の学生は言うまでもなく、音楽研究領域、音楽教育領域の学生においても、しっかりとした実技レッスンを受けながら、そこでの経験を演習での研究に有機的に関連付けていくことができます。

学生各自の関心に応じて、より幅広い音楽知識と教養を身につけられるよう、他領域ないし他専修、他学科の専門科目についても選択履修することのできる枠を設けていることも特色です。

入学者の受入れに関する方針【アドミッション・ポリシー】

■音楽文化専修の目的

音楽文化専修では、音楽に対する愛と探究心を持ち、特に、音楽創作、音楽研究、音楽教育の領域における幅広い専門知識と豊かな思考力、実践力によって、地域社会および国際社会

の発展に貢献することのできる人の育成を目的としています。

■ 求める入学者像

上記の目的に沿って、以下のような人を求めます。

- ・ 音楽を愛し、なかでも西洋音楽に関する基本的な知識を持っている人。
- ・ 作曲ないしデジタル鍵盤楽器による演奏・創作への強い関心と意欲があり、また、それらに関する一定程度以上の経験を持つ人。
- ・ 様々な音楽やそれを取り巻く音楽文化について強い好奇心と探究心を持ち、かつ、自ら積極的に考え、また調べつつ学んでいくことに意欲のある人。また、特に宗教音楽について強い関心を持つ人。
- ・ 音楽教育について関心を持つ人。またとりわけ、将来、学校の音楽教員を強く志す人。

★音楽文化学科幼児音楽教育専修

卒業の認定に関する方針【ディプロマ・ポリシー】

本学所定の単位を修得し、深い教養と豊かな音楽性を身につけ、次のような学修成果を上げ、教育に関する高度な専門性と得意分野を持ち、さらに優れた実践力を兼ね備えた幼稚園教諭になる能力を有すると認められる者に学士（音楽）の学位を授与する。

- (1) 保育者としての使命感と誇りを持ち、自己の心身の健康を維持しながら、自己を省み、向上させる態度を身につけている。
- (2) 幼児を取り巻く音・音楽文化について絶えず関心を持ち、音楽表現に関しての専門的な実践力を有している。
- (3) 幼児の援助に関する基礎的理解力と実践力を有している。
- (4) 保育の現場において社会性のある態度をとることができ、幼児や保護者への指導力とともに、組織の一員として活躍できる能力を持つ。

教育課程の編成及び実施に関する方針【カリキュラム・ポリシー】

幼児音楽教育専修は、幼稚園教諭一種免許状取得要件を基盤に、幼稚園における高度な専門性と優れた実践力を兼ね備えた有為な教育者の養成を目的とし、4年間の学修で理論と実践を体系的に学ぶことができるカリキュラムとする。

- (1) アクティブラーニングを取り入れ、少人数授業により、一人ひとりに合ったきめ細やかな指導を行う。
- (2) 幼児教育についての理論的な学修については、免許法に必要な科目のほかに、例えば特にモンテッソーリ教育法を体系的に学ぶことで指導法の把握の深化を図っている。
- (3) 幼児の音楽活動の指導法に関する実技、およびさまざまな楽器の専門的な演奏技術に関しては、本学の特徴を活かし、指導サポートする。
- (4) 幼児・音・遊びの関連を、リトミックをベースにして、4年間を通して絶えず主体的、体験的に学ぶ体制を整えている。
- (5) 最終学年では「卒業演習」および「卒業研究」をとおして大学での学習のまとめを行う。

入学者の受入れに関する方針【アドミッション・ポリシー】

◇幼児音楽教育専修の目的

本専修は音楽大学の音楽学部の中に設置された幼稚園教諭免許課程である。その特徴を活かし、学生の“音楽するわざと心”を磨くとともに、幼児教育の基礎理論や保育内容について学ぶ。音楽をベースとしながら、幼児の全人的な発達を支援できる保育者を育てることを目的とする。

◇求める学生像 上記の目的に沿って以下のような学生を求める。

- (1) 幼児に対する関心と幼児教育の重要性に対する認識を持っていること。
- (2) 音楽および音楽的な文化・社会活動に関する興味と経験があること。
- (3) 音楽文化および音楽芸術を理論と技能の両面から真摯に追求することができること。
- (4) 音楽的素養と技術を保育活動に活かして、保育者として活躍することを目指していること。

★音楽文化学科音楽コミュニケーションデザイン専修

入学者の受入れに関する方針【アドミッション・ポリシー】

■卒業時まで期待する学修の内容

- ・音楽文化の社会的機能とその直面する課題を理解し、適切に情報・環境を読み解き、新たな文化を発信する技能を持つ人材を育成することを目的とします。
- ・総合的能力（行動力・思考力・コミュニケーション能力）の習得を到達目標とし、少人数演習方式の授業科目を通して、現代の音楽文化を支える社会構造の基礎概念を知り、音楽文化・芸術の本質や多様性、様々な芸術ジャンルの成立原理や文化を総合的に理解できるようになること、またアートマネジメントの様々な専門的スキルがみにつくことが望まれます。
- ・音楽と人間との関わりを心理学的な視点からも探求しようとする姿勢を持ち、基本的な心理学の知識・方法論を身につけるとともに、それらを実践の場で生かすことができるようになることが求められます。

■学位授与の基準

卒業時に以下の資質を有することを目標として、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

- ・音楽文化に関する広い専門的知識と理解力・実践力を有していること
- ・幅広い知識とコミュニケーション能力を踏まえて、柔軟な思考と適切な行動力、表現力を身につけていること
- ・アートマネジメントおよび心理学に必要な方法論、専門的スキルを身につけていること

教育課程の編成及び実施に関する方針【カリキュラム・ポリシー】

■指導・研究の体制

音楽コミュニケーションデザイン専修では、応用音楽学およびアートマネジメント関連領域、心理学領域の専門教員による講義科目と演習系科目を中心としながら、学生が幅広い教養と人間力をもって社会出ていけるよう、音楽基礎科目の他、専門的な方法論と知識に加え、専攻分野を超えて幅広く関心ある科目を履修し、学際的かつ総合的な文化形成の視点を養うことを奨励しています。また、専門を異にする複数の教員が同一科目内で関わることで、多角的な視点を持って学修を進められる教育体制をとっています。

■教育内容および教育方法の特色

- ・知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、社会生活における汎用的な能力を育成するために、研究や討論など、実践を多面的に積みあげる演習型の少人数授業（ゼミナール）を実施しています。また、習得した知識やスキルを統合し、問題の解決と新たな文化的価値の創造につなげていく能力や姿勢を育成するために、丁寧な個別指導を行っています。
- ・学生時代における自己確立とキャリア探求の基礎形成として、初年度より、実践的な社会連携プログラムを展開しています。

卒業の認定に関する方針【ディプロマ・ポリシー】

■音楽コミュニケーションデザイン専修の目的

音楽コミュニケーションデザイン専修は、音楽の基礎力をもとに、応用音楽学と心理学領域からのアプローチにより、繊細な感受性と豊かなコミュニケーション力、柔軟な人間理解の

視点を身に付け、音楽産業をはじめ様々な分野における実務において、広く社会で活躍するクリエイティブな人材を養成することを目的としています。

■求める学生像

現代社会の人間の行動と心に対する洞察力のある学生、文化・社会に貢献する人材に必要とされる、主体性や行動力のある学生を求めています。本専修は多様な経歴・目的意識をもった学生に広く門戸を開いており、履修しておくべき科目等は設置しておりませんが、専修の国際性を鑑み、英語力を身に着けることに積極的な学生を期待しています。

★演奏学科声楽専攻

卒業の認定に関する方針【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時まで期待する学修の内容

声楽家、指導者として必要な声楽の技術を土台に、音楽芸術を愛する心とそれを人に伝えようとする「他者のために生きる」というキリスト教的な精神性を持つ人となることを期待します。

■学位授与の基準

4年間、真摯に音楽、特に「歌」と向き合い、その真の喜びを体験し、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

教育課程の編成及び実施に関する方針【カリキュラム・ポリシー】

■研究・指導の体制

- ・各国語での演奏や文化に精通した声楽教員を配置し、学生一人一人に合った進度をもとに、きめ細かい指導を行います。
- ・室内楽アンサンブルやオペラの授業では、音楽する喜びをともに経験し、協力することにより社会性、協調性を育てます。

■教育内容および教育方法の特色

○教養学科目

「人間学」をとおして、「教養・実力・慈愛のある音楽家」にとって必要な精神性、および音楽をとおした社会貢献の必要性を学びます。「語学」を学ぶことにより、その言語が話される国の文化を知り、歌うために必要なディクッションとコミュニケーション能力を培います。

○関連学科目

西洋音楽の基本となるグレゴリオ聖歌とポリフォニーを「宗教音楽」で習得、更に演奏の裏づけとなる「音楽史」、「音楽理論」などを履修します。

○主要学科目

個人指導の「声楽研究」を軸に「室内楽」「歌曲研究」でレパートリーの充実を図り、「合唱」と「オペラ研究」で、学生同士が協働する力を育て、ともに芸術作品を作ること、更には演奏を支える舞台裏について知り体験することができます。3年次にはセシリアホールでの「学内演奏」で声楽研究の成果を発表し、「卒業演奏」では4年間の研究とレパートリーの総まとめとしての発表を行います。

入学者の受入れに関する方針【アドミッション・ポリシー】

■声楽専攻の目的

自らの持つ「声」という楽器を用いて、音楽と詩の融合から生まれる愛と感動を伝えることのできる声楽家、指導者として社会に貢献できる人材の育成を目的とします。

■求める学生像

上記の目的に沿って、以下のような学生を求めます。

- ・音楽全般、特に「歌」を愛する心を持ち、基礎的なソルフェージュ能力を備えた人。
- ・将来の演奏のための技術を磨くための努力を惜しまず、情熱を持って音楽芸術への道を極め続けることができる人。
- ・音楽する喜びをとおして「協働」するためのコミュニケーション能力を持つ人。

★演奏学科鍵盤楽器専攻

卒業の認定に関する方針【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時まで期待する学修の内容

生涯にわたり音楽と深く関わり自ら学び続ける姿勢を身につけ、音楽活動、または、それ以外の場においても豊かな人間性を発揮し、人・社会と深く関わっていただける人材となることを望みます。

■学位授与の基準

卒業時に以下の資質を有することを目標として所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

- ・卒業演奏試験においては4年間の集大成に相応しい演奏がなされ、音楽家としての自負をしっかりと持っていること。
- ・真摯に音楽と向き合い、音楽の果たす役割を深く理解し、社会に貢献できる力を身につけていること。

教育課程の編成及び実施に関する方針【カリキュラム・ポリシー】

■研究・指導の体制

入学までに個々に培われた実力を再確認し、カテゴリー制を通して、基礎力の強化も含め、各能力の更なる向上を目指して徹底した個人指導を行っていきます。

■教育内容および教育方法の特色

○教養学科目

人間性および一般教養力を培うための授業科目を配しています。

○関連学科目

「〈音楽家の耳〉トレーニング」など基礎能力の重要性を認識し確実な音楽力をつける授業を行っています。

○主要学科目

- ・演奏家・指導者、共に優れた音楽家を育てるために、「鍵盤学期奏法研究」、「ピアノ指導法」、「伴奏法」、「アンサンブル」などの科目を配しています。
- ・実技はマンツーマンによる指導で、教員との相談のもと各自のペースで学修が進められるようカテゴリー制をとっています。
- ・学内演奏会ではセシリアホール（大ホール）における演奏経験を積み、卒業演奏試験時にはセシリアホールにおいて4年間の集大成の演奏ができることを目標としています。
- ・定期演奏会のオーディション（協奏曲）やエリザベトコンサート（室内楽）など、学内オーディションの機会も豊富にあります。

入学者の受入れに関する方針【アドミッション・ポリシー】

■鍵盤楽器専攻の目的

バロックから現代に至るまで幅広い時代の鍵盤器楽曲を、奏法研究、曲の成り立ち、その社会的背景などの観点から多角的に研究することにより幅広い視野を持って音楽を深く掘りさげ、将来の演奏家、指導者として社会に貢献できる豊かな教養のある人材を育てることを目的とします。

■求める学生像

- ・バロックから現代に至るまでの作品に積極的に取り組み続けることができる人。

エリザベト音楽大学 3つのポリシー

- ・意欲的な探究心を持ち、受け身でなく自ら求める積極性のある人。
- ・演奏のみに固執するのではなく、幅広い教養と人間的成長を求める意欲を持つ人。

★演奏学科管弦打楽器専攻

卒業の認定に関する方針【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時まで期待する学修の内容

芸術家としての使命感と誇りを持ち、なおかつ専門家の自覚を持って、社会貢献できる人材となっていることを期待します。

■学位授与の基準

卒業時に以下の資質を有することを目標として、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

- ・音楽を愛し、演奏家としての使命感と誇りを持ち、絶え間ない探究心を有している。
- ・演奏家としてのみならず、教育者としての立場で社会に貢献する意思と能力を有している。
- ・さまざまな現場において、社会人としての協調性を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針【カリキュラム・ポリシー】

■研究・指導の体制

- ・第一線で活躍している教員を配置し、演奏技術、表現力を高めるため、専門性の高い、きめ細やかな個人指導を行います。
- ・合奏の授業を通して、社会活動に繋がる積極性、協調性を育てます。

■教育内容および教育方法の特色

- ・オーケストラ・吹奏楽・弦楽アンサンブル・管楽アンサンブル等の演奏会による演奏実践。
- ・プロフェッショナルな楽団へのインターンシップ。
- ・国内外の著名な演奏家によるマスタークラス等の講習会の開催及び受講。
- ・国外における演奏実習、講習会への参加で国際的感覚の修得。
- ・中学生、高校生への指導実習。

入学者の受入れに関する方針【アドミッション・ポリシー】

■管弦打楽器専攻の目的

芸術家として、演奏技術の向上のみならず、音楽全般の理解を深め、社会に貢献できる人材を育てることを目的とします。

■求める学生像

- ・音楽を愛し、自分の夢と可能性を信じ諦めない人。
- ・演奏技術のみならず、音楽に対する興味、関心を持ち、様々な時代様式の音楽に積極的に取り組む人。
- ・自らの能力を高めるための忍耐力と熱意をもつ人。